

様式1〔申し合わせ事項〕：【委員会、全協：共通様式】

〔氏名： 伊藤治雄 〕

研修概要、内容、所感

□研修所感

- ・議会が議事機関としての機能を維持し、執行機関（行政側）と議決機関（議会）の十分な審議等を行うことの重要性・必要性を説かれていた。
しかしながら、東員町に限らず全国的にみても、現状は両者の関係維持に奔走し首長の追認機関となっていないか、真に住民のための協議がなされているかとの疑問を改めて感じた。
- ・議会報告会や意見交換会の開催は必要と考えるが、全国的にみても参加者の減少など形骸化しているとの指摘もある。
そのため、単なる議会の報告会から脱却し、分散開催や討論会形式など手法等の改善の余地があると実感した。
- ・自治体議会の広報戦略として、鷹栖町議会の一般質問に対する傍聴者評価を事例に挙げ説明されたが、住民参加を促す効果や広報の位置づけとしては一定の評価に値すると考える。（課題等は次項で標記）
- ・政務活動費の使途について、調査研究以外に活用している議員が多いと指摘されたが、法律的には「調査研究その他の活動に資するための経費の一部として交付」されているものである。
そのため、議員自身の活動実績を住民に広報するための印刷製本費や配布費の一部として使用することも、私は議員としての大切な広報活動の一環と考える。

□今後の議会活動への反映

- ・鷹栖町の一般質問事例の採点者を傍聴者だけではなく中立的立場にある有識者などを加え、専門的かつ客観的立場で評価を仰ぐことも良いのではないかと考える。
- ・政策議論を活発的に展開するためには、政策集団としての会派を組織することが重要と考える。

